

# 日本家屋から保育を考える① 築120年古民家『聴福庵』

第63号 2018年5月14日発行

## ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や  
ご要望に応えるコンシェルジュがいる  
ように、保育においても様々な  
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=  
ミマモルジュとして、保育に関する  
ご要望にお応えしていくよう  
活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢

## 『聴福庵』

2016年4月より、築120年の古民家を『聴福庵』（ききふくあん）と名付け、自分たちの手で一つひとつ直してきました。

『聴福庵』は、子どもたちに「ぬくもり」を通して、  
日本人の道徳を伝承する実践道場です。

本号と次号では、新宿せいが子ども園 藤森平司園長のブログや、  
新宿せいが子ども園のフェイスブックから『聴福庵』を通して、  
保育について考えていきたいと思います。

また、これまでの『聴福庵』の変遷につきましては、  
下記のレポートをご参照ください。

**聴福庵のあゆみ（本誌、第2号）**

**『聴福庵』2年目を振り返って（本誌、第56号～58号）**





『聴福庵』外観



ドイツの保育施設



用途によって襖を取り外し



子どもの発達に合わせて、  
パーティションを移動

## 建物は第2の教師

ドイツでは、「建物は第2の教師である」と言われています。そこには、建物は単に入れ物ではなく、一つの教師であるということは、そこには教育的意図があるということではないかと考えました。では、日本の建物と、ドイツの建物の違いは、文化や風土の違いだけでなく、教育的意図の違いがあるのではないか、それは、伝統的な家屋から見ることができるのでないかと考えたからです。

特に保育室は、子どもの生活の場であり、教育の場として捉え直すべきだと考えます。都会では、待機児解消と言って、保育室を増設するという急務の課題に対して、ビルの一室であったり、閑静な住宅街で隣と近接していて、1日中大声を出すことができない場所であったり、一日中大きな音がしているガードの下であったりしている保育室が増えています。

保育室は、単に子どもたちを収容し、託児し、雨風が防げればいいという場所であってはいけないです。臥竜塾ブログ 2016年2月2日  
『家のイメージ』より

## 部屋の仕切り方

日本家屋の特徴 部屋の仕切り方です。仕切り方を変えることによって、用途に合わせていたのです。狭い部屋から、広い部屋まで自在です。そのために仕切りは、構造体でない襖であり、そのレールは、盛り上がっていらない溝である敷居なのです。しかも、取り外しもできます。臥竜塾ブログ 2015年10月28日 『部屋の仕切り』より

パーティションで仕切ることで、寝返りやハイハイ、歩き始めた子、それぞれの発達に合わせた空間を自由に分けることができ、日本家屋の在り方が保育に活かされていることを感じます。

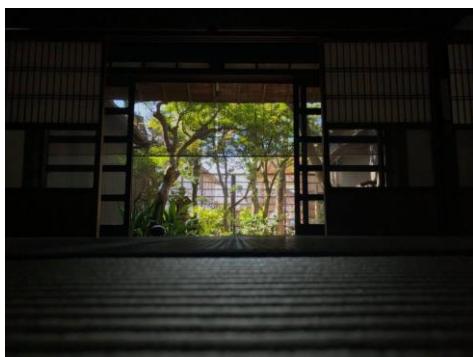


夜の『聴福庵』の様子

## 明暗のコントラスト①

園の職員と話したのですが、食事の時にあまりに子どもたちのテンションが上がってしまったときに、少し薄暗くしたら静かになったということを聞きました。日本文化を見直すときに、ただ、明暗のコントラストと言うよりも、陰のあり方、役割り、特にメリハリとしての意味、また、意図して陰の部分をつくるということなどの演出も検討するといいかもしれません。

臥竜塾ブログ 2015年11月23日 『伝統的な家の役割』より



中庭から差し込む光

## 明暗のコントラスト②

日本の文化の中では、西洋で多く見られるような光と影は強烈な対比ではなく、緩やかな変化として捉えてきたのが日本の文化だと思うのです。それは、以前のブログでも紹介したように、谷崎の「陰影礼賛」に書かれてあるような、ぼかしであったり、薄がりであったり、いわゆる墨絵の世界の気がしています。ですから、子どもたちの影絵遊びも、OHPから映し出される、縁がくっきりしたものとの影ではなく、障子に映した陰影の世界だったのです。

臥竜塾ブログ 2016年1月28日 『墨絵』より



この暗い部屋では、OHPの上で葉っぱの葉脈を観察したり、おはじきに光を当てたり、写し絵をしたりして遊んでいます。

ドイツでは、お散歩に行く前に暗い部屋に集まり、1人ずつろうそくを消して、静かに部屋を出るということをしているそうです。

しかし、日本ではお散歩に出る前に、「エイエイオー」とテンションを上げて行きます。そうすると、やはり怪我することが多くなります。

2015年9月13日 新宿せいが子ども園 Facebook より



縦額障子



保育園のお茶室

### ●過去のバックナンバー

#### 第60号

ミマモリングソフトの開発の  
経緯と活用事例①、②

#### 第61号

幼児期の終わりまでに  
育ってほしい10の姿①

#### 第62号

保育園見学

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>

### 伝統的な美

西洋化し、国際化することによって日本の家は、かつて住人が享受していた魅力と晴れやかな力との秘密を捨て去ることになったと考えます。地味で華麗だった壁の上塗りは、面白みのない壁紙に替わり、半透明の紙である「障子」は、ありふれていて神秘のないガラスになったと言います。さらに、畳の香りと織目とは、ありきたりの絨毯に替わってしまい、屋根の瓦や藁は、赤、緑、青などの雑色のトタン板に取って代わられ、「床の間」や「書院」も、普通の絵や写真に席を譲って消えてしまっていると言います。日本において、現代化は、伝統的な「美」を捨て去ることになったのですね。私は、園作りの中に、これまでの日本がつないできた日本的な伝統的「美」を少しでも子どもたちに伝えたいという想いで、この消えてきたものを少しでも再現しようとしています。

臥竜塾ブログ 2016年2月25日 『諸価値の番人』より

茶室では、もちろんお茶をやることもありますが、それはお作法というより、茶の湯を通じて心を落ち着かせる事を目的としています。静かに心を解放し、自分を見つめ、子どもたちの発散するエネルギーを自分の中に取り戻すという時間を作ります。そして、内的スキルという自分の心を見つめるスキルを高めます。…中略…

そして、茶室で食べる給食は、いつもと違い、特別な容器に入れ、先生1人と卓袱台を囲み、昔の一家団欒のようにして食べています。茶室で食べた園児は、「なんか落ち着く」と言っていましたが、子どもでも落ち着くという感覚が分かるのですね。

2015年9月12日 新宿せいが子ども園 Facebook より

次号に続く

(報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢)



〒161-0023

東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビルディング2号館10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、  
QRコードからお願いします。